

介護連絡帳

今回は、特別講演として、JA 高岡居宅介護支援センターの荒木富美子様より「介護連絡帳」ができるまでのご苦労と、この連絡帳の異議についてお話しをいただきました。

病院でも施設でも、在宅でも、情報共有の重要性が認識されていますが、如何に行うかの有効な方法がありませんでした。この「介護連絡帳」はそこに一石を投ずるものと考えます。この講演記録は、私のノートから書かせていただきました。

みんなでつなぐ介護連絡帳 ～連携のツールとして～

JA 高岡居宅介護支援センター（JA もえぎの里） 荒木富美子

高岡市の状況と配布状況

高岡市の人口は176800人で、65歳以上の高齢者は47611人であり、高齢化率は26.9%です。ただ現在はもう少し上昇し、27.2%になっているようです。ちなみに、国の高齢化率は23.1%で、富山県は26.2%です。

高岡市の介護保険認定者は8440人で、認定率は17.2%です。ちなみに国は16.2%、県は17.1%とのことです。

8400人の利用打ち分けは、居宅サービス利用者は4800人、地域密着型サービス利用者は458人、施設サービス利用者は1927人で、全体で7191人が利用しているとのことです。この内、在宅サービスの利用者全員に「介護連絡帳」を、担当ケアマネジャーから配っているとのことです。つまり、4800人と458人の合計、5300人くらいだとのことです。

介護連絡帳の開始

2000年から始まった介護保険の開始時には、それぞれの事業所が工夫して連絡帳を作っていました。目的としては、利用者へのサービス、覚え書きなどとともに、他の事業所との差別化などの目的もあったようです。

しかし、訪問看護ステーションで1冊、デイサービスで1冊、別のデイサービスで1冊、ヘルパーステーションで1冊等々、たくさんの連絡帳があり、また大きさもまちまち、書き方もそれぞれであり、たくさんあって困る状況でした。利用者としてもどの連絡帳を持っていけばよいのか分からなくなっていました。

そのような時、ケアマネの部会で「皆が使う連絡帳があればいいね」という話しになり、利用者主体で考えようということになったようです。この検討を行った「介護支援事業者部会」とは、「高岡市介護サービス事業者連絡協議会」のことであり、72の法人が参加している「介護サービス事業者部会」と、ケアマネの事業者である「介護支援事業者部会」からできています。

2001年に「介護連絡帳」ができましたが、これに対する反応は、当初良くありませんでした。例えば、「自分の事業所にノートがあるから不要である」「大きすぎて不便」「もっと多くの情報が必要」「他の事業所と共有することに抵抗感がある」「誰が費用を持つのか」等々、



不満が多かったようです。

介護連絡帳の特徴

1冊の介護連絡帳に記入するのは、主治医、訪問看護師、ヘルパー、デイサービス、ケアマネ等、多職種ですが、さらに患者や家族も記入できるようにし、分かりやすくしてあります。

具体的には、

1. フェースシートの情報が見やすくなっており、基本的な情報を共有しやすくできています。
2. 介護サービスの内容や状況が分かるようになっています。
3. 保険サービスも記入できます。
4. 家族から専門職まで、誰もが記入できます。
5. 見開き2ページに6枠とっており、1週間分を想定してあり、毎日サービスを受ける人は1年で1冊の計算になっています。

利用者にとっての利点は、

1. 使っているサービスの内容が分かる。
2. 複数のサービスを連絡帳で管理できる。
3. 通院や受信時、介護サービス情報を主治医に伝えやすい。
4. 家族の思いが伝えられる。等があります。

サービス事業者にとっての利点としては、

1. 利用者の状態が把握できる
2. 以前の様子やサービスが把握できる
3. サービスの均一化や向上につながる
例えば、入浴が難しかった施設は、入浴できた施設に連絡し、どうしていたかを聞くことができる
4. サービス事業者間の連携がとりやすい
5. 在宅サービスと通所サービスとの連携がとりやすい 等があります。

ケアマネジャーにとっての利点に、

1. 介護サービス利用状況を把握しやすい
2. 利用者の変化を見ることができる
3. モニタリングが簡単にできる 等があります。

作成費用は、年間5000部あるので、70～80万円になりますが、利用者の負担はありません。高岡市の介護サービス事業者72法人与連絡協議会が費用の2/3を持ち、高岡市が1/3を持ちます。

「介護連絡帳」があることで、本人や家族・主治医や病院・ケアマネ・サービス事業者の4つが情報を共有し連携をスムーズに行うことができます。

介護メモ

フリガナ

氏名

男・女

住所

〒

電話番号

—

生年月日

明治
大正
昭和

年

月

日生

(歳)

介護認定

要支援 (1 ・ 2) ・ 要介護 (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5)

有効期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

要支援 (1 ・ 2) ・ 要介護 (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5)

有効期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

要支援 (1 ・ 2) ・ 要介護 (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5)

有効期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

かかりつけの医師

医療機関の名称(所属)	医師の氏名	電話番号	備考

介護支援専門員

居宅介護支援事業所名 介護予防支援事業所名(地域包括支援センター名) 小規模多機能型居宅介護事業所名	担当者名	電話番号	備考

緊急連絡先

氏名	続柄	住所/機関名	電話番号	備考

身障手帳 あり・なし

特記事項

私が受けるサービス・介護保険外のサービス利用状況

利用サービス(開始月)	担当事業所(電話番号)	介護保険外のサービス	利用の有無
介護予防訪問介護 訪問介護 〔ホームヘルプサービス〕 (年 月)		① 食の自立支援サービス	無・有 (年 月より)
介護予防訪問入浴介護 訪問入浴介護 (年 月)		② 在宅寝たきり高齢者等への 福祉金の支給	無・有 (年 月より)
介護予防訪問看護 訪問看護 (年 月)		③ 在宅寝たきり高齢者等への 介護年金等の支給	無・有 (年 月より)
介護予防訪問リハビリテーション 訪問リハビリテーション (年 月)		④ 紙おむつ等引換券の支給	無・有 (年 月より)
介護予防通所介護 通所介護 〔デイサービス〕 (年 月)		⑤ 緊急通報サービス	無・有 (年 月より)
介護予防通所リハビリテーション 通所リハビリテーション 〔デイケア〕 (年 月)		⑥ 福祉電話の貸与	無・有 (年 月より)
介護予防短期入所 短期入所 〔ショートステイ〕 (年 月)		⑦ 寝具の丸洗い消毒乾燥	無・有 (年 月より)
介護予防福祉用具貸与 福祉用具貸与 (年 月)		⑧ 徘徊高齢者等家族支援サービス	無・有 (年 月より)
介護予防福祉用具販売 福祉用具販売 (年 月)		⑨ 福祉車両タクシーの助成券	無・有 (年 月より)
住 宅 改 修 (年 月)		⑩ 生活支援型ホームヘルプ サービス(軽作業)	無・有 (年 月より)
小規模多機能型居宅介護 (年 月) 認知症対応型通所介護 (年 月)		⑪	無・有 (年 月より)
		⑫	無・有 (年 月より)
		⑬	無・有 (年 月より)
		⑭	無・有 (年 月より)
		⑮	無・有 (年 月より)

介護連絡帳の上手な使い方 (記入例)

毎日の体調に
変化がないか
注意しましょう。

食事の内容や量
など記入しましょう。

その日の特記
があれば書き
ましょう。

便や尿の回数や量
など変化がないか
記入していきましょう。

5月15日(月)	●体温(10時) 36.0℃ ●脈拍(10時) 60回/分 ●血圧(10時) 140~90mmHg		介護メモ(介護の内容や気づいた点など) (サイン)
	食	朝	10時 身体を清拭しました。じょくそうは、少しずっ良くなっています。(〇〇事業所看護婦〇〇)
	食	昼	
	事	夕	15時 おむつ交換 ジュース100ml飲まれた。(〇〇事業所ヘルパ〇〇)
便	7時 すこしやわらかめ	20時 おむつ交換 変りなし(同上 〇〇)	
尿	10回		
連絡欄	最近食欲がある。姉がきて話をしていた。楽しそうだった。		

5月16日(火)	●体温(10時) 36.0℃呼吸数20 ●脈拍(10時) 62回/分 ●血圧(10時) 130~80mmHg (入浴後) 140~90		介護メモ(介護の内容や気づいた点など) (サイン)
	食	朝	10時~15時 ティサービス 入浴はとても気持ちよさそうでした。 レフレッシュでは皆で歌を歌いました。 とても大きな声で楽しそうに歌っておいれました。 (〇〇ティサービス〇〇)
	食	昼 全部食べた	
	事	夕	
便	0回		
尿	9回		
連絡欄	ティサービスに行ってきた後は疲れるからよく眠る。		

5月17日(水)	●体温(時) ℃ ●脈拍(時) 回/分 ●血圧(時) ~ mmHg		介護メモ(介護の内容や気づいた点など) (サイン)
	食	朝 食欲あり、全部	10時 部屋の掃除をしました。テーブルの上の片付けは自分でされました。いつものリハビリ体操をしました。(〇〇事業所〇〇)
	食	昼 玉子うどん	
	事	夕	14時 トイレへ行こうとして転んだ。
便	2回		
尿	10回		
連絡欄	転んだ時に腰を打ったようだが、たいした痛みはないようなので、様子を見る。		

この連絡帳は介護を受ける方や家族の方と、介護に携わるみんなが協力して介護を支え合っていくための大切な連絡帳です。

毎日の介護の中で伝えなければならないことや、今後の介護のために役立つポイントなど、気づいたことも忘れず記録し役立てていきましょう。

月 日 () ()	●体温(時) ℃		介護メモ(介護の内容や気づいた点など) (サイン)
	●脈拍(時) 回/分		
	●血圧(時) ~ mmHg		
	食	朝	
	事	昼	
		夕	
	便		
尿			
連絡欄			

介護の内容や気づいたことを記録していきましょう。
たくさん記録することがある日は2日分使って記録してもいいですよ。

月 日 () ()	●体温(時) ℃		介護メモ(介護の内容や気づいた点など) (サイン)
	●脈拍(時) 回/分		
	●血圧(時) ~ mmHg		
	食	朝	
	事	昼	
		夕	
	便		
尿			
連絡欄			

その日の様子や、他の人に伝えたいことなどを記録しましょう。

月 日 () ()	●体温(時) ℃		介護メモ(介護の内容や気づいた点など) (サイン)
	●脈拍(時) 回/分		
	●血圧(時) ~ mmHg		
	食	朝	
	事	昼	
		夕	
	便		
尿			
連絡欄			

14時 車検を点検しました。問題なし。
(福祉用具会社名〇〇)



月 日 () ()	●体温(時) ℃		介護メモ (介護の内容や気づいた点など) (サイン)
	●脈拍(時) 回/分		
	●血圧(時) ~ mmHg		
	食	朝	
	事	昼	
		夕	
	便		
	尿		
	連絡欄		

月 日 () ()	●体温(時) ℃		介護メモ (介護の内容や気づいた点など) (サイン)
	●脈拍(時) 回/分		
	●血圧(時) ~ mmHg		
	食	朝	
	事	昼	
		夕	
	便		
	尿		
	連絡欄		

月 日 () ()	●体温(時) ℃		介護メモ (介護の内容や気づいた点など) (サイン)
	●脈拍(時) 回/分		
	●血圧(時) ~ mmHg		
	食	朝	
	事	昼	
		夕	
	便		
	尿		
	連絡欄		

その後の変化

「介護連絡帳」ができて10年、今では広く使われるようになり、介護連絡帳が高岡市では普通になりました。現在、射水市でもこのような連絡帳が開始となり、砺波市でも取り組みが始まっています。その他、他府県からも問い合わせがあり、全国へ広がっていく気配が見られます。

質疑応答

どのような苦労があったのかとの質問に、いろいろな意見があったが、最終的にやっぴこうとなった。情報を載せたフェースシートの部分は、取り出せるように変更を加えた。バージョンアップもしたとのことでしたが、もともになるものは変わっていないとのことでした。

何しろ最初は使ってもらえず、全部の方にケアマネが配ったが、皆自分のところのノートを使っていた。恐らく事業所もお金をかけたので、すぐ他のを使うとはならなかったのだろうとのことでした。作るのはすぐ作ったけれど、使ってもらえるまで時間がかかった。1年以上は使ってもらえなかったとのことでした。しかし徐々に使う事業所が増えていて、自然に使われるようになっていったようです。

高岡市介護サービス連絡協議会では、他に「介護サービス事業所一覧」を載せたガイドブックも作っているとのことでした。

南砺市の方からは、「デイサービスにいらした時、これを何度か見たことがある」とのことで、「ショートステイやデイサービスの両方を、同じ施設で利用しているにもかかわらず、情報がいついていないことがある。介護連絡帳があるとよいと思う」とのことでした。

高岡市の施設の方からは、介護連絡帳が高岡市だけのものとは思わなかった。介護連絡帳があると、デイサービスでどうなっているのか？ キズが有るけどいつからか？ 処置や薬の使い方も全て書いてあるので、これら全て分かって大変良い。とのことでした。

しかし、身障者の人にはないので、ノートを持ってきてもらっている。「介護連絡等のようなものが身障者にもあるとよいと思う」とのことでした。

高岡市の他の施設からは、「往診にいった時、処置の変更を必ず書いている」「通所系や訪問系など、いろいろなサービスの利用が一目で分かる」「家族の伝言が書いてあってよい」「全体がイメージできる」と絶賛でした。

他の施設からは、一つのもが本人を中心にしてあってよいと思う。しかし、個人情報の問題はないのか。「あの業者はこんなことをやっているのか」など知られることの問題はないのか。「入院でいえばカルテのようなものだが、病院と違い個人情報はどうなるのだろうか」との質問がありました。

それに対し、初め広がらなかったのは、そのような点もあったのかもしれない。「他の事業所に見られてしまうのが心配」と考えたかもしれない。でも利用者主体で考えると、情報公開の方が良く、それで乗り越えてきたのだろうと思うとのことでした。

記入にあたっては、「これは誰もが見るノートである」という意識を持っており、本人も家族も見つものです。そのため書き方や内容はどの事業者も気を使っている。時に、書き方によっては家族からクレームがくることもある。そのため「書きたくない」という事業者もあったとのことでした。実際は、どの事業者も「連絡帳」に記入し活用しているとのこ

とでした。

「介護連絡帳」の記入の他に、医師であればカルテに、看護師であれば看護記録に、介護事業者であれば自分たちの事業所記録にも記入している。皆がみる「介護連絡帳」と自分達の事業所記録は書き方や内容を当然ながら区別しているとのことでした。

感想

「介護連絡帳」は、情報公開になるため、医療者にとっての教育的な意味合いもあると考えられました。主体は本人と家族であり、情報公開で困るのは家族ではなく事業者でしょう。情報公開と情報共有をすることで、行っているサービスが手に取るように分かり、むしろ信頼関係が強くなると考えられます。

情報公開については病院から在宅への流れがありますが、病院ではカルテを皆が共有するようになってきています。特に電子カルテがそれを後押ししています。ところが皮肉なことに、情報公開は家族や本人には、未だ十分とは言えません。

在宅では「介護連絡帳」を使うことで、医療者のやっていることを皆がみることで、情報を共有し、点での情報が線になり、そして面になることで、安心につながるのではないのでしょうか。情報公開に関しては、「介護連絡帳」は「病院のカルテ」よりも進んでいるかもしれません。

医療者にとっても、皆がみることで緊張感が生まれるだけではなく、医療ミスの早期発見や予防にも役立つと考えました。

「介護連絡帳」の奥は深く、これの与えるインパクトの大きさは予想外かもしれません。

文責:塚田邦夫